

# 平成28年度における大竹市の決算状況

## 1 収入及び支出の状況

平成28年度の一般会計並びに特別会計の決算における収入・支出は、第1表、第2表のとおりです。

一般会計における歳入総額は、152億4,048万1,469円（対前年度比12.0%増）、歳出総額は、151億1,749万9,731円（同比13.8%増）となり、歳入・歳出決算額とも前年度を上回りました。

形式収支は、1億2,298万1,738円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源2,387万6,000円を差し引いた残額、すなわち実質収支は、9,910万5,738円となりました。

### （1）歳入の状況

財源の根幹となる市税は、法人市民税が約5,931万円減少したものの固定資産税が約4,995万円、個人市民税が約1,907万円増加したこと等により、市税全体では約1,390万円（対前年度比0.3%）の増となりました。

また、地方交付税は約9,342万円（同比6.0%）、地方消費税交付金は約5,394万円（同比9.5%）の減となりました。

市債は、自然公園整備事業債等の減はあるものの、借換債や市営住宅御園整備事業債の発行により、約2億6,085万円（同比14.2%）の増となりました。

### （2）歳出の状況

歳出は、「住みたい、住んでよかったと感じるまち」をまちづくりのテーマとした第五次大竹市総合計画「わがまちプラン」のもと、「大竹市が笑顔や元気がかがやいているまち」になるよう、次の事業に取り組みました。

- ① 大竹を愛する人づくり
- ② 生活基盤が整ったまちづくり
- ③ 安全なまちづくり
- ④ 安心できるまちづくり
- ⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり
- ⑥ 行政・社会の仕組みづくり

## ① 大竹を愛する人づくり

大竹を愛する人を育てることは、大竹が好きな人をつくることであり、まちづくりに自覚と責任が持てる人を増やしていくことでもあります。これがまちづくりの推進力となるという視点に立ち、事業を実施しました。

主な取り組みは、「**玖波小学校施設整備事業**」として玖波小学校の耐震化を行いました。これにより、市内すべての小中学校舎の耐震化が完了しました。

## ② 生活基盤が整ったまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に最初に考えるのは「そこに働く場所があるか」、「働く場所からどれくらいの距離があるか」という生計に関連したことや、基本的なまちの機能である生活環境についてではないかという観点から、事業を実施しました。

主な取り組みは、「**市営住宅御園団地整備事業**」として御園6号アパートの建設工事に着工しました。

## ③ 安全なまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に、次に決め手となるのは「災害や犯罪、事故、火災などに対して、安全が確保されているか」ではないかという考えから、どのようにして市民の安全を確保するかという視点で事業を実施しました。

主な取り組みは、「**本庁舎改修事業**」として耐震及び地震対策機能を付加したエレベーターへの改修や、「**アゼリアホール天井改修事業**」を行いました。

## ④ 安心できるまちづくり

「安全」の次に重要なのは、ライフステージのそれぞれの段階での社会保障制度、つまり、高齢者福祉や児童福祉、医療体制などの充実ではないかと考え、事業を実施しました。

主な取り組みは、「**こども医療費助成事業**」としてこどもの健やかな成長を支えるため、中学校を卒業するまでの児童・生徒の入院・通院に対して助成を行いました。

## ⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり

人が最終的にまちに求めるものは、「ゆとり」や「豊かさ」、「生きがい」など、生活の質の向上ではないかと考え、「生涯を通して生きがいを持ち、生き生きとこのまちで暮らしてほしい」という視点で事業を実施しました。

主な取り組みは、「**図書館改修事業**」として図書館利用者の環境改善のため、空調設備を更新しました。

## ⑥ 行政・社会の仕組みづくり

総合計画に連なるすべての施策を実施するには、「ヒト（人的資源）・モノ（物的資源）・カネ（資金）」に代表される地域資源が必要です。「地域資源をいかに有効に使い、実りの多いまちづくりをする」という視点と、健全な行財政運営を推進し効率的で投資的効果の高いまちづくりを目指し、事業を実施しました。

主な取り組みは、「**自治会活動支援事業**」として、コミュニティ活動の拠点である自治会が設置する地区集会所の整備を支援しました。